

科目名	臨床微生物学実習 (Practice in Clinical Microbiology)			科目コード	428
開講学科	臨床検査学科	選択区分	必修	単位数 (時間)	1 単位 (45時間)
科目区分	専門科目	履修時期	3 年次後期	関連DP	臨②③④
担当教員	北尾 孝司、荒川 裕也				
授業概要	臨床微生物学で学んだ各種微生物の特徴と感染症を理解し、各種感染症の起炎菌である病原微生物の検出方法、薬剤感受性試験および薬剤耐性菌の検出方法・同定法について学ぶとともに検査結果のまとめ方について教授する。また各種細菌の同定・薬剤耐性因子における遺伝子検査について教授する。				
授業目標	臨床微生物学で学んだ各種微生物の特徴と感染症を理解し、各種感染症の起炎菌である病原微生物の検出・同定方法、薬剤耐性菌の検出方法について修得するとともに得られた検査結果について報告書の作成について学ぶ。また各種細菌の同定・薬剤耐性因子における遺伝子検査の方法を習得する。				

授業計画

回	項目	内容
1～2	呼吸器系感染症起炎菌の検査法 (1)	咽頭拭い液などの検体採取方法、呼吸器系感染症起炎菌 (喀痰材料) の塗抹検査法、分離培養検査法を行う
3～4	呼吸器系感染症起炎菌の検査法 (2)	呼吸器系感染症起炎菌 (喀痰材料) の塗抹検査と分離培養検査の結果から同定検査法を選択し実施するとともに薬剤感受性検査法を行う
5～6	呼吸器系感染症起炎菌の検査法 (3)	呼吸器系感染症起炎菌 (喀痰材料) の同定検査の結果から起炎菌を決定し症例についてまとめる 薬剤感受性試験の結果についての判定を行う
7～8	腸管系感染症起炎菌の検査法 (1)	便の検体採取方法、腸管系感染症起炎菌 (糞便材料) の分離培養検査法を行う
9～10	腸管系感染症起炎菌の検査法 (2)	腸管系感染症起炎菌 (糞便材料) の分離培養検査の結果から同定検査法を選択し実施するとともに薬剤感受性検査法を行う
11～12	腸管系感染症起炎菌の検査法 (3)	腸管系感染症起炎菌 (糞便材料) の同定検査の結果から起炎菌を決定し症例についてまとめる 薬剤感受性試験の結果についての判定を行う。PCRによるVero毒素の検出を行う
13～14	髄膜炎、菌血症・敗血症起炎菌の検査法 (1)	髄膜炎起炎菌 (髄液材料)、菌血症・敗血症起炎菌 (血液) の塗抹検査法、分離培養検査法を行う
15～16	髄膜炎、菌血症・敗血症起炎菌の検査法 (2)	髄膜炎起炎菌 (髄液材料)、菌血症・敗血症起炎菌 (血液) の分離培養検査の結果から同定検査法を選択し実施するとともに薬剤感受性検査法を行う
17～18	髄膜炎、菌血症・敗血症起炎菌の検査法 (3) 真菌の検査方法	髄膜炎起炎菌 (髄液材料)、菌血症・敗血症起炎菌 (血液) の同定検査の結果から起炎菌を決定し症例についてまとめる 薬剤感受性試験の結果についての判定を行う PCRによる薬剤耐性菌の検査法について行う 皮膚表在組織病変部からの検体採取方法、酵母様真菌の分離培養、酵母様真菌・糸状菌スライドカルチャー法、糸状菌の巨大培養法について行う
19～20	性感染症、尿路感染症起炎菌の検査法 (1)	性感染症、尿路感染症起炎菌 (尿) の培養検査法、塗抹検査法を行う
21～22	性感染症、尿路感染症起炎菌の検査法 (2) 真菌の集落・形態観察	性感染症、尿路感染症起炎菌 (尿) の分離培養検査の結果から同定検査法を選択し実施するとともに薬剤感受性検査法を行う 真菌の集落および形態の観察を行う
23	性感染症、尿路感染症起炎菌の検査法 (3)	性感染症、尿路感染症起炎菌 (血液) の同定検査の結果から起炎菌を決定し症例についてまとめる 薬剤感受性試験の結果についての判定を行う
成績評価方法	定期試験 (50%)、レポート (50%) で評価する。	
教科書	臨床微生物学実習書を配布する。 山中喜代治「新・カラーアトラス微生物検査」(医歯薬出版)	
参考図書等	森田耕司ほか「微生物検査学 実習書」(医歯薬出版株式会社)	
授業時間外の学習について	微生物学、臨床微生物学Ⅰ及び微生物学実習で配布したプリントまたは教科書等を参考に復習する。次回の項目について微生物学実習書、臨床微生物学実習書及び新・カラーアトラス微生物検査等を参考に予習する。	
関連科目	424 微生物学、425 臨床微生物学Ⅰ、426 臨床微生物学Ⅱ、427 微生物学実習、442 院内感染管理学、447 医学検査診断学Ⅰ、444 臨地実習Ⅰ、445 臨地実習Ⅱ、446 臨地実習Ⅲ	
備考	実 北尾、荒川：臨床検査技師 (検査機関)	

(24カリ) 臨床検査学科